

Title	老年医学の本質と展望
Sub Title	
Author	新村, 健
Publisher	慶應医学会
Publication year	2007
Jtitle	慶應医学 (Journal of the Keio Medical Society). Vol.84, No.4 (2007. 12) ,p.239-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	話題
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069296-20071200-0239">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069296-20071200-0239</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

BIOPEX<sup>®</sup>は注入直後から声帯をしっかり押せるため、後部声門間隙が大きい症例も適応となります。声帯外側に硬化性物質を注入し、声帯の内方移動を図る本術式は、「喉頭の内腔から行う甲状軟骨形成術Ⅰ型」と考えております。

この新しい治療は現在、防衛医大、慶應義塾大学、佐野厚生、国際医療福祉大学東京ボイスセンター、済生会宇都宮の5施設で行われております。現在までに約90例程度ですが、新しい注入術の一つとして今後確立されるよう、手術手技、安全性、長期治療成績などの検討を重ねております。この手術について詳しく聞きたい方は、上記施設の担当者までお問い合わせ下さい。

声帯の組織と同じ物性を持ち、注入が容易で安全な物質がまさに理想的な注入材料といえます。今後さらに理想的な注入材料に出会うことが我々の夢であり、希望でもあります。

大久保啓介（佐野厚生総合病院耳鼻咽喉科 医長）

## 老年医学の本質と展望

老年医学の本質とは、①老化と老年病の機序の解明、②その制御、予防、治療方法の開発とそれらの臨床応用、③ケアを含めた包括的全人的医療の実現、にあると考えます。

今日の分子生物学や医療工学の急速な発展に伴い、老化を制御したいという古来からの人類の夢は、現実味をもって語ることが可能となりました。1935年に一日摂取総カロリーを30-40%制限することによりげっ歯類の寿命が著明に延長すると初めて報告された時、その結果は驚きと疑念をもって受けとめられました<sup>1)</sup>。そしてその後の基礎医学の成果は、このカロリー制限療法とは、寿命延長を含めたさまざまな抗老化効果を、再現性をもって、さまざまな動物種で確認することが出来る唯一の抗老化療法であることを科学的に証明しました（しかしヒトでの証明はいまだなされていません）。カロリー制限の効果を模倣できるような化合物、CR mimeticsとして期待される赤ワイン由来のポリフェノール、resveratrolに関する基礎研究が、この一年にNatureとCellの紙面を彩るまでに、今日抗加齢医学は盛り上がりを見せています<sup>2,3)</sup>。慶應医学部にも抗加齢医学関連寄附講座が4つできました。このような抗加齢医学の躍進は、世間と若い医師の目を“老化”に向けさせた点で、老年医学にも多いに貢献しています。

こうした基礎医学的側面の目覚ましい発展の一方、実際の行政、臨床における老年医学の現状はどうでしょうか？

保険制度上、65歳から74歳までの前期高齢者に対し、75歳以上の高齢者を後期高齢者と呼びます。後期高齢者医療保険制度の新設に向けた話し合いが平成18年秋より既に開始され、新制度は平成20年4月の創設が予定されています<sup>4)</sup>。財源基盤の整備が最重要課題ではありますが、終末期医療も含めた高齢者の医療の在り方をめぐって広く議論が交わされていくことは重要なことです。残念ながら、後期高齢者医療の在り方に関する特別部会構成メンバーには、老年医学の専門家は含まれていません。この春には広く国民の意見を収集する目的で「後期高齢者医療の在り方に関する基本的考え方」というアンケート調査が厚生労働省のホームページにて行われました。しかし、ほとんどの医療従事者がそれを知らないうちに募集期間は終了し、総応募件数はたったの326件で、特に40歳未満の若者の意見は36件に留まっています<sup>5)</sup>。

日常診療として高齢者診療は、「さじ加減が難しく、わかりにくい」「曖昧で治療効果ははっきりしない」との印象を若い医師に与えるようで、人気がありません。確かに高齢者医療にはテーラーメイド医療というべき良い点と、根拠のない医療というべき悪い点がいまだ混在しています。高齢者人口が急増し、制度的にも意識的にも高齢者医療が変革期にある日本においては、さまざまな高齢者診療のエビデンス作成は急務ではありますが、同時に世界にそれらを発信できるチャンスでもあります。老年医学が真価を発揮すべき時は、高齢者人口がピークを迎えていくこれからの20年間です。この20年間を実りある時代にするためには、基礎医学的側面が一人歩きするのではなく、社会医学的、臨床医学的側面とともにバランスのとれた形で老年医学を発展させていくこと、次代を担う若い医師が老年医学という道を選べる状況を作ることが、慶應医学においても必要ではないかと考えております。

## 文 献

- 1) McCay CM, et al. The effect of retarded growth upon the length of life span and upon the ultimate body size. 1935. Nutrition 1989 ; 5 : 155-71.
- 2) Baur JA, et al. Resveratrol improves health and survival of mice on a high-calorie diet. Nature 2006 ; 444 : 337-42.
- 3) Lagouge M, et al. Resveratrol improves mitochondrial function and protects against metabolic disease by activating SIRT1 and PGC-1 alpha. Cell 2006 ; 127 : 1109-22.
- 4) <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/09/s0922-4.html>
- 5) <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/dl/s0618-7a.pdf>

新村 健（慶應義塾大学医学部老年内科）